

## 穏やかな冬の干潟

### ■ 水中に潜む様々な生物

今回の調査は、仙台の最高気温が10.0℃を記録し風も弱い穏やかな日であった。イシガレイを採集することはできなかった。水底にはゴカイの仲間の巣穴が数多く観察された（Fig. 1）。巣穴から噴き出す水の勢いで水面がゆがみ、日光が屈折している様子も観察された（Fig. 2）。水門付近で、手網を使いヒメハゼやエビジャコの仲間を採集した。潟湖内ではイソコツブムシの仲間（Fig. 3, 4）を採集した。



(Fig. 1 ゴカイの仲間の巣穴)



(Fig. 2 噴き出す水による水面のゆがみと屈折した光)



(Fig. 3 イソコツブムシの仲間)



(Fig. 4 イソコツブムシの仲間腹面)

### ■ 南北から延びる砂州

七北田川の河口では、南北それぞれから砂州が伸びていた（Fig. 5, 6）。現在は河口が開いているが、今後の変化を注視していきたい。



(Fig. 5 七北田川河口)



河口

(Fig. 6 七北田川河口 Fig. 5の一部拡大)